

■ ■ 業務開発・広報委員長挨拶（西岡委員長）

私自身、業務開発・広報委員長として、これまで3年間、全国のITコーディネータのビジネスをどうやって確立するか、という視点でさまざまな施策に取り組んできた。率直に言って、これから何をなすべきかというテーマについて頭を悩ませている。というのも、これまでの路線どおりに同じことの繰り返しであるならば、組織としての存在意義はないと考えるからだ。組織が古び、当初の目的を達成した後も、組織の維持そのものが目的になっていく実例をいくつも目にした。業務開発・広報委員会は、そうあってはならない。過激な発想かもしれないが、ITコーディネータ協会という組織ですら、何年かの後には、今の体制ではなく、ITコーディネータ自身が運営していく形に変えてもいいのでは、とも私は考えている。そんな覚悟のもとで、自分は委員長として行動している。

具体的な次年度に向けた活動計画だが、先日、新しい企画の具体案について、委員長として業務開発・広報委員会メンバーに新しいテーマについて議論を投げかけた。幸いにいくつも新しいアイデアがでてきた。それらをもとに、新たな試みを中心に新年度の活動を検討していきたい。

一方、本日のようなワークショップについても、私自身、一つのイメージをもっている。それは、ITコーディネータ自身が主体的に参加し、情報を交換し、共有する場としてワークショップを位置づけ、自分たちの手で活動を盛り上げていくというイメージだ。ITコーディネータ協会の事務局は、余計なことをしなくて結構です。自分たちの活動はこんなに意義深いものなので、ぜひ協会メンバーも聞いてください、となったときに本当のITコーディネータ自身の活動になったといえるのではないだろうか。来年度の届出組織としての活動のあり方を、みなさんも考えていただきたい。